

年 頭 の 辞

農薬工業会会長 菊池浦治

あけましておめでとうございます

激動、不確実など多彩な時代として迎えた80年代第1年度は、我々にとりましては冷夏に災いされた日本の農業という、まことに悲惨な事態に直面したのでありますが、これらの中で植物防疫法制定以来30周年にあたることを記念した事業、ならびに植物調節剤利用開発普及事業が開始されてから前者と同様30周年を迎えた記念事業が開催され、我々植物防疫関係者としては極めて意義深い節目を画したものであります。

この30年間、我々が体験した様々な歩みの跡は、両者の記念誌にそれぞれ詳しく活字になっておりますが、食糧確保と増産の至上命令下、農業に講ぜられた各種施策の中で、生産技術の部門で病害虫、雑草防除の問題が農薬の有効利用によって解決されてきたことは、万人が高く評価しております。改めてこれらの事業の円滑な推進をご指導された諸先生方のご努力に対し、心から敬意と謝意を表するものであります。

80年代第2年目を迎える本年は、昨年末賑やかに報道されているように、OPECで決めた石油価格の値上がりを始めとして、交通費・教育費・物品税その他各種公共料金等すべて値上がりムード蔓延の中で、農薬の価格は冷害に見舞われた農業サイドの厳しい事情もあって、メーカー側の要請は十分に聴き容れられず、止むを得ない線で決定されました。

こうした環境下、減反政策推進強化による稲用農薬への影響、転作作物への対応など、私共業界としては引続きまことに厳しい年であります。しかし、世界の食糧問題、日本の農産物自給率問題、病害虫雑草の細分多様化など、国の内外を問わず農業問題の大きな動きの中で、私共に課せられている使命は益々重くなることを強く認識し、会員一致して自らの企業経営の堅実化をはかりながら、農業企業として社会の期待に応えていきたいことを念願しておりますので、ご関係者の変わらぬご指導をお願いして、新春の言葉といたします。

会 長 就 任 挨拶

財団法人 日本植物調節剤研究協会会長 千野知長

昨年12月13日の「植物調節剤利用開発普及30周年記念式典」がとり行なわれた、意義深い佳